

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0272501008		
法人名	社会福祉法人福祉の里		
事業所名	グループホームのへじ		
所在地 (電話番号)	〒039-3129 青森県上北郡野辺地町餅栗川原3-2 (電話) 0175-65-2226		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年10月13日	評価確定日	平成21年12月19日

## 【情報提供票より】(平成 21年 7月 31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算 7人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	210 円	昼食 260 円
	夕食	310 円	おやつ 0 円
または1日当たり 780 円			

### (4) 利用者の概要( 7月 31日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	85 歳	最低	91 歳
		最高	72 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立野辺地病院・川上クリニック・戸館内科整形外科医院・平内中央病院・横浜診療所
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは総合福祉センターの2階にあり、老人保健施設と併設している。周囲には高校、大型商業施設、コンビニエンスストア、公園等があり、歩いて外出できる環境にある。リビングや各居室には大きな窓があり、光の差し込みやすい環境でとても開放的である。職員は利用者がその人らしく生活できるように、日々会話の中から意向を引き出し、寄り添うことを大切にケアに取り組んでいる。また、毎月、内部研修を実施し、職員全体で質の向上に努めている。野辺地町観光協会の協力を得て、町の特産であるケツメイ茶を利用者と栽培、収穫し地域との関わりを大切にすると同時に、利用者の役割や楽しみごとの一つとなっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域密着に関する事業所独自の理念を掲げる。職員で意見を出し、事業所独自の理念を作り、スタッフルームに掲示している。</li> <li>・虐待防止研修実施の際の記録を残す。虐待防止だけでなく、実施された研修に関しては全て記録を取っている。</li> </ul>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義を理解し、日々の業務を振り返りながら職員全体で自己評価を行なっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、現状報告や行事、外部評価の報告等を行なっている。グループホームからの報告が中心で、参加者からの提案や意見等は活発に出ない状況がある。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>月1回施設全体の広報の他、事業所独自の広報を作成し、金銭管理状況や利用者状況を記載し、家族へ送付している。家族の意見等は、意見箱の設置や面会時の声かけ、満足度を把握する為のアンケートを取る等、意見を吸い上げられるように工夫している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>野辺地町観光協会の協力を得て、町の特産であるケツメイ茶を利用者と栽培、収穫し地域との関わりを大切にしている。地域行事への参加や小学校への雑巾寄付などにより、交流を持つように努めているが、近隣が新興住宅地である為、日常的な交流が図られていない。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全体で話し合い、事業所独自に地域密着についての理念を掲げて取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングや日々のケアの中で、理念に立ち返りながら意志統一を図っている。また、スタッフルームへの理念の掲示、職員の名札の裏に明記し、いつでも目に入るように工夫している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	野辺地町観光協会の協力を得て、町の特産であるケツメイ茶を利用者と栽培、収穫し地域との関わりを大切にしている。地域行事への参加や小学校への雑巾寄付などにより、交流を持つように努めているが、近隣が新興住宅地である為、日常的な交流が図られていない。		地域住民との交流の糸口として、町内会へ入会するなど、地域活動へ参加する機会を増やすことで更なる取り組みが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	自己評価は職員全体で行い、外部評価の結果についても職員へ伝達、検討し、改善に向け取り組んでいる。		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	2ヶ月に1回、利用者、家族、民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員の参加のもと会議を開催し、現状報告や行事、外部評価の報告等を行なっている。		会議の内容がグループホームからの報告が中心となっている為、参加者からの意見や質問を引き出し、サービスの質の向上につなげることが期待される。
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	地域包括支援センターを窓口として、必要時に連絡を取り合い連携を図っている。		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	現在、制度を利用している利用者はいないが、研修を企画し職員の理解を深めている。		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	内部研修の年間計画を作成・実施している。日々のケアが虐待にあたっていないのか職員が振り返る機会となり、共通理解を深めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には書面を提示し、専門用語を控えわかりやすい言葉を用いて、確認しながら説明している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回施設全体の広報の他、事業所独自の広報を作成し、金銭管理状況や利用者状況を記載し、家族へ送付している。状態変化や緊急の連絡等は、その都度行なっている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置や面会時に家族から意見や要望等の確認をしている。また年1回、家族の満足度を把握する為、アンケートを取り、家族の意向をサービスに反映できるよう取り組んでいる。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は出来る限り行わないように配慮している。また、異動があり引き継ぎを行う場合も、それぞれの職員の理解度によって引き継ぎ期間を調整し、利用者へのダメージが最小限になるよう柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修の年間計画を作成し、職員全体で学ぶ機会を設けている。また、研修案内を職員玄関に掲示し、外部研修へも積極的に参加している。外部研修後には、職員への伝達機会を作り、知識や技術を深めている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修参加時に、同業者との交流を持ち情報交換や交流を図っている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に本人・家族の見学の機会を設け、納得の上で利用して頂けるように努めている。また、利用者が家族と繋がっているという安心感を得られるよう、定期的に自宅への外泊が出来るような機会作りをしている。</p>		
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理や掃除を一緒に行い、その中で利用者の知恵を引き出すような会話を心掛け、寄り添いながらケアしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活歴や家族から得た情報、日々の会話や表情から希望を引き出し、把握に努めている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の意向を確認したうえで職員全体でカンファレンスを行い、利用者の視点にたった介護計画を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月に1回介護計画を見直しているが、入院や状態変化時にはその都度プランを見直している。また、新規入居者へは、2週間の暫定プランを作成し、その後の状況を確認しながら再度プラン作成している。</p>		<p>介護計画の定期的な見直しはされているが、同時にアセスメントも見直すことが望ましい。</p>
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ショートステイを受け入れる体制を整えている。また利用者・家族の希望に応じて、外出支援を行っている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続して利用しており、連携が図られている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期への体制が整っていないため、状況変化に応じて、本人、家族、医療機関等と今後の生活について検討している。		今後、医療機関との連携を図り、終末期への体制を整えていく事に期待したい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室への入室時は、ドアをロックして声をかけ、了解を得てからドアを開ける等プライバシーに配慮している。写真については、広報に掲載する時には家族へ承諾を得て、ホーム内へは掲示せずアルバムで管理している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的に利用者個々が役割を持っているが、その日の状況に合わせ、利用者本位で支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の準備や片付けは、利用者が自分の役割であることを認識し、職員と一緒に台所に立ちながら行っている。また、毎週木曜日の昼食は利用者の希望を取り入れ、調理している。食事は、職員も一緒にテーブルに座り、同じものを食べ、会話をしながら楽しい雰囲気作りを心掛けている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週2回の入浴日はあるが、利用者のペースに合わせて時間や日にちを変えて対応している。また、入浴する順番や誰と入りたいのか等希望を聞き、利用者の心地良い入浴を支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時に生活歴、また日々の会話から得意なこと好きなことを聞き取ることで、利用者の出来ることや役割を把握し、掃除や料理、野菜作り等を実際に行っている。		日々の会話から得られた生活歴を記録し、職員が共有して利用者がより力を発揮し、楽しめる機会をもてることに期待したい。
28	58	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的に地域行事への参加やドライブを企画し行なっている。日常的には、近隣に大型商業施設やコンビニ等があり、利用者の希望に沿って買い物や散歩など外に出る機会を作っている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>内部研修の年間計画を作成・実施し、職員の理解を深め、実際に身体拘束は行っていない。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の鍵は、電気錠で常時開錠しているとトラブルの原因となる為、施錠している。利用者が玄関付近へ行った場合には、声を掛け希望があれば、付き添いいつでも外に出られるよう支援している。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回、施設全体の消防訓練に参加し避難方法等身につけている。</p>		<p>職員全員が避難方法を理解し共有できるように、マニュアルを作成することが望ましい。 災害時の施設全体や職員への連絡体制は整っているが、今後は地域住民の協力を得られるような働きかけをすることが望ましい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事は併設施設の栄養士が作成したメニューに基づいて調理している。また、1日の食事・水分摂取量を日誌に記入し体調管理している。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>外出の際、インフルエンザの流行時にはマスクを着用し、うがい手洗いを励行している。また、インフルエンザの予防接種は毎年利用者、職員ともに行っている。感染症予防マニュアルがあり、研修などを通じて職員へ周知している。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
34	78	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、居室共に大きな窓があり光の入りやすい空間となっている。また、テレビや音楽はただ流しているのではなく、利用者の希望やその時の状況に合わせて行っている。畳の小上がりやソファなどが配置され、好きな場所で過ごせる工夫がある。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者・家族へ説明し、自宅で使用していた馴染みの家具や雑貨類を持参して頂くよう呼びかけ、利用者が居心地良く過ごせるようにしている。		

 は、重点項目。